

令和3年10月20日
土木部下水道課 下水道推進グループ
担当者 柳原、大井（内線 4285）
ダイヤルイン 087-832-3567

下水疫学調査を始めます

1 趣旨

新型コロナウイルスは、発症までに糞便中への排泄が始まることから、下水中のウイルス濃度を測定することで、無症状でPCR検査等を受検していない陽性者も含めて、早期に流行を検知できるのではないかと考えられています。

この下水中に含まれる新型コロナウイルスの検出については、昨年5月から日本水環境学会が研究を開始し、今年3月には「下水の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル」がとりまとめられています。

国土交通省においても、今年3月に「下水道における新型コロナウイルスに関する調査検討委員会」を設置し、保健衛生部局の感染拡大防止対策に寄与できるよう、下水中の新型コロナウイルスの濃度測定の方法等について、検討が進められています。

本県においても、下水中に含まれる新型コロナウイルスの濃度を測定することにより、流行の早期検知への可能性を検討するため、本調査を実施するものです。

2 調査内容

毎週定期的に下水処理場に流入する汚水を採取し、これに含まれる新型コロナウイルスの濃度を測定します。

この濃度測定は、下水中に含まれる新型コロナウイルスの濃度が非常に薄いため、高度技術が必要であり、この技術を確立している塩野義製薬(株)に委託しています。

3 調査期間

令和3年10月25日(月)～令和4年3月

4 調査場所

調査場所は、次の2つの下水処理場です。

- ・ 県管理：中讃流域下水道大東川浄化センター
- ・ 高松市管理：東部下水処理場

